

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100566		
法人名	有限会社 ユートピア		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	佐賀県佐賀市西与賀町屋外1236-7		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々が出来ただけ自立した生活ができるよう、またそのひとらしく過ごしていただける様に配慮した建物の設計になっている。居室すべてにトイレと洗面台がありプライバシーに配慮した援助、支援を行っている。
 買い物や散歩は勿論の事、建物が住宅地にあり通学路で人通りも多く近所の方や子供たちが建物の前を通るときは挨拶や声かけを行い、社会との接点を感じていただいている。
 また食事は、生活の中での大きな楽しみの一つであるため、利用者の好みを反映させたり、好きなものを取り入れたりしている。また季節を感じられる献立をたて、器も工夫をして楽しんで頂いている。
 年一回は家族との交流会を実施してホームでの様子を深く感じて頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街にあり、ホーム前の道路は近隣の人達の散歩コース、子供達の通学路で人通りが多い。ホームの前を通られる時には声かけや挨拶を行ったりと、地域との交流を大切にされている。開設されて8年目を迎え、地区に徐々に受け入れられ、地区の祭りや行事への招待が届いたり、子供達の体験学習の場となっている。
 また、代表者の「美味しい食事は高齢者の大きな楽しみ」と、食事の提供には力を入れられている。入居者の好みや苦手なものを把握し、一人ひとりに合った食事の提供となっており、「この食事は本当に美味しいか！」と楽しみとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりの個性やこれまでの生活を大切に、継続できるよう支えていくことを理念に明示し、それを開所当初から掲げている。施設内にも掲示してそれに沿った支援が出来るように日々努力している。事業所会議でも繰り返し話題に上げている。	職員の採用時に理念について説明がなされている。毎月の事務所会議等で理念に沿ったサービスになっているか確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい祭り、公民館の行事に参加したり、地域の中学生の職業体験等を受け入れている。日常の散歩で近隣者との交流している。また、地域の方々が自宅で採れた野菜等のおすそ分けなどもあり交流がある。	住宅地にありホームに面した道路が通学路や散歩コースとなっている。開設より8年目となり、地域の人に徐々に受け入れられ、お互いに挨拶をしたり、ちょっとした会話を楽しまれている。また、地域のふれあい祭り、公民館行事の案内が届き、参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談があり、認知症のみならず介護全般の相談にのっている。日ごろから職員も近隣の高齢者に声かけを行っている。管理者は、キャラバンメイト要請講座を受けており、今後は地域活動に力を入れたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの報告や話し合いはもちろんであるが昼食を委員の方々も一緒にとって頂き、利用者や交流を持ってもらい実際を見ていただいている。二ヶ月に一回開催しており、意見は職員で共有しサービス向上に活かすよう努力している。	地域の代表、地域包括支援センター職員、利用者家族等の参加を得て、2ヶ月に1回開催されている。状況報告とともに、認知症への対応等、意見交換が行われ、そこでの意見をサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の福祉担当者と連絡を取り合い、入居相談は勿論、利用者のケアサービスについて伝えながら協力関係を築いている。特に生活保護入居者については力を入れている。	地域包括支援センターから運営推進会議への出席や、市保護課より入居者の状態把握で訪問された時、現状報告とケアの取り組みを伝えながら、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容は代表者を含め全職員が理解している。身体拘束をしないよい方法を話し合っており実践している。室内の目に付きやすいところに掲示を行っている。	外部研修や勉強会を通じて、身体拘束の具体的な行為や弊害等を全職員が理解されており、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時話し合いをおこない職員一人ひとりが認識しており虐待のないよう努めている。また、職員どうしで言葉使い等も含め注意しあって虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ活用されている利用者はおられないので、一部スタッフのみの理解である。しかし成年後見人制度等の活用の必要性があれば、今後は、関係者と話し合い、活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には安心して過して貰える様に説明し、質問に対しては理解してもらえるまで話し合うよう努めている。解約や改定等の場合も十分に説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、利用者との会話から意見要望を聞いている。ご家族からは、面会時に話を聞き、運営推進会議等で意見を伝えている。運営推進会議に家族の参加もあり運営に反映させている。	利用者との会話から意見、要望を聞かれています。また、面会時や介護計画の見直し時に家族と十分に話すことで、意見、要望を言ってもらい、それらを日々のケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の事業所会議ではもちろんのこと、日々気づき等あるときは随時意見を聞き、随時代表者に職員の意見を伝えると共に、代表者も事業所会議に参加したり、日ごろから職員との会話に心かけ、運営に反映させている。	代表者、管理者は毎月の事務所会議や日頃、職員との会話を大切にされている。そこで出された意見や提案は運営に反映させられるよう務められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の状況に応じて職員の確保を行い、勤務表作成前には希望休暇をだしてもらうことで調整を行い、働きやすいよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望や希望を聞いたうえで施設外研修に職員を参加させ、その内容については、事業所会議と報告書で報告させ全職員で研修内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おたっしや本舗城西主催のネットワーク会議に管理者や職員を参加させ交流させている。認知症の外部研修にも積極的に職員を出し、交流の機会を作っている。情報交換等も行い質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話や訴えは基より表情やしぐさから気持ちを察するよう努力し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談の段階から十分に話を聞き、困っていることや不安なこと、要望などを聞き取るようにしている。どのような形であれ、些細なことでも話していただけるように心がけ、安心して頂けるような対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の意向を尋ねたのち見極め、よりよいサービスの利用が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と一緒に過ごし、出来ることは、自分でして頂く(自立支援)よう見極めたうえで、お互いに助け合いながら生活を共にする関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な事情を抱えた家族がおられるが、入居時に、家族と共に利用者を支えて行きたいと家族に伝えている。まめに連絡を行い、現状を伝えることでよい関係を作る努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の情報収集をして、それをもとに会話している。ドライブ等の外出時は、自宅近くや町内の様子を見ていただいている。自宅で行われる行事(法事や祝い事等)には、できるだけ参加し、親戚やご近所の方と会える機会を作ってほしいと家族にはお願いし、実施してもらっている。	ドライブで以前住んでいた場所への訪問、また、家族の協力を得て、行きつけの美容院利用の継続、法事への出席、墓参り等が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者同士の関係を十分に把握し、状況を共有することで支えあっている。必要により、職員が介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表者・管理者は、退居されても必要に応じ連絡や訪問を行い、本人様の状態把握、家族の相談にのっている。職員も家族様と買い物等で会った場合は、挨拶をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で利用者の思いに耳を傾けるようにしている。直接本人に希望を尋ねることも多い。困難な場合は、本人の日常の言動から意向を察し、毎月の事業所会議で職員の認識の共通化を図っている。実践できることはすぐに実践している。	家族からの情報を得ると共に、日々の暮らしの中で本人から話を聞いたり、言葉、表情から、本人の希望、意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報だけでなく、入居後の会話の中からこれまでの暮らしの把握を行っている。知り得た情報は、随時、生活暦として記載するよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を共有できるよう個人記録に出来るだけ詳しく一日の過ごし方を記載し、業務日誌や口頭での伝達等で全職員が現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様からは、直接意見を聞いたり、日々の会話の中から意向をくみ取ったりしている。家族様とは、面会時や電話等で日ごろから十分なコミュニケーションをとるよう努力しており、意向の確認を行っている。必要により通院時に家族様と共に付き添いを行い、主治医や医療関係とも話をして連携をとっている。または毎月の会議等で、本人らしい介護計画を立てられるよう情報を共有し、カンファレンスを行っている。	本人、家族の要望、医療関係者の意見を取り入れて介護計画作成が行われている。毎月の事業所会議で全職員でモニタリング、意見交換を行い、常に検討がなされ、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全職員での記録とし、共有しながら実践しているが、記録だけでは伝わらない事もあるので、口頭でも伝達している。ケアカンファレンスも定期的に行い介護計画にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様の意向や要望は出来る限り受け入れ、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・実習生などの依頼があれば、積極的に受け入れ、協力し合っている。近隣住民、駐在所、民生委員、居宅介護支援事業所等とも連携して安全・安心した生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人様と家族様の意向を聞き主治医を確認している。入居後も本人様の身体および精神状態に合わせ、家族様と話し合いを行い、医療機関を紹介したり主治医変更を行ったりして、適切な医療を受けられるよう支援している。	定期受診は、家族対応で、本人及び家族が希望されるかかりつけ医での受診となっている。その際は情報提供が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各利用者の主治医や協力医療機関の医師、看護師等に相談したり、連絡したりしながら日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、家族に了解を得て診察等に同席させて頂き担当医から説明を受けている。病院のソーシャルワーカーとも綿密に連絡を取っている。面会にも行き情報収集等も行っている。家族とも密接に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族様には重度化した場合等どうしたいかの意見を伺って。必要により協力医療機関の医師を交えた話も行っている。入居時には、本事業所で出来る対応についての説明を十分に行っている。また、状態の変化に応じてその都度話し合いを持ち、家族様の意向の確認を行っている。	入居時にホームの方針について説明がなされている。重度化された時点で、再度、医師を交えて家族と話し合いを持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的実施される外部の救急法の研修会に参加して訓練している。全職員が参加する事ができないので会議で伝達講習もおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施して、内一回は消防立会にて指導を受けている。また、11月に行う防災訓練には地域の方々に参加して頂けるように直接自宅にお願いに回ったり文書でお願いをしたりしている。	夜間想定も含め、年に2回、火災避難訓練を行い、消防署の指導を受けられている。しかし、地震・水害等を想定しての対策や地域の協力を得られる体制にはなっていない。	地震・水害等、火災以外の災害も想定した対策の検討と、今後も継続して、運営推進会議、自治会等に協力を呼びかけ、地域の協力体制を築いていける事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分気配りをしたケアに努めている。名前の呼び方も本人の意思を尊重し、どう呼んで欲しいか聞いている。但し、苗字が同じ人については、間違いのないよう下の名前で呼ばせていただいている。	本人の気持ちを大切に言葉かけや対応がなされている。記録等の個人情報名前ではなく、ローマ字と番号で記録し、すべて、事務所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に、希望にそえる様に支援し、自己決定を促している。利用者個人の理解の程度をみきわめ、オープンクエッションやクローズドクエッションなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転や混乱、あるいは夜間の不眠がある場合を除いて本人の意思を尊重し、好きなように過ごしていただいている。基本的には食事の時間は決めているが、本人の好きな時に食べてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、本人の希望の美容室や理容室・希望日があればそれに沿って支援している。髪型も本人の希望を分かりやすく店に伝えている。服も好みのものを着てもらっている。混乱等のある場合は、職員が選んで適切なものを着ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの嗜好を知り、日々の体調や食欲を把握しながら食事の支援を行っている。特に代表者の美味しい食事を提供し、喜んで頂きたいの方針で食事には力を入れている。一部の方のみであるが、調理の下処理・片付け等一緒に行っている。	食事は生活の中で大きな楽しみ、美味しいと言ってもらいたいとの代表者の考えのもと、全職員、一人ひとりの好み、体調、食欲を把握しながら支援が行われている。入居者も下ごしらえや片付け等、可能な範囲で関りを持たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食1人ひとりの摂取量を把握し、食事の支援をしている。また、その時々に応じて言葉かけや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、声かけを行い口腔ケアを促している。介助の必要な人に対しては、毎日寝る前に義歯洗浄を行いを行っている。一人ひとりに応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方が多いが、紙パンツをはかれ、失禁をされることがあるので一人ひとりの排泄パターン、状態を把握して言葉かけ、必要により誘導や介助を行っている。各居室にトイレがあるため、毎日の掃除のとき、使い方や汚れ具合等で状態把握に努めている。	一人ひとりの排泄の時間、リズム、パターンを把握し、入居者の動きを見逃さない事で、さりげなく誘導し、トイレで排泄出来る様、支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かすよう一緒に取り組んでいる。食事には繊維質の多い食材をやわらかく調理し提供するなどの工夫をしたり、水分を多く摂ってもらうよう促したり、薬を出来るだけ使用しなくてよいように工夫しているが、服薬が必要な方には主治医の指示に従っている。便秘の状況を主治医に連絡している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は、一人週3回となっているが、無理にその曜日に入って頂く事はせず、ご本人様の希望にて変更している。また、状況や希望に応じて毎日でも入浴できるように努めている。	週3回の入浴が基本であるが、希望により、いつでも入浴できる体制となっている。入浴を拒否される時は、タイミングや言葉かけを工夫して入浴を促されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室・リビングでいつでも休息出来る様にベット・ソファを設置し、室温・湿度の調整を行い、気持ち良く休息出来る環境にしている。その人の状況、状態にて言葉かけ休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの処方箋を見て対応するようにしている。変更や追加があった場合は、口頭と記録で把握・確認出来る様にして服薬後の状態観察を十分に行っている。主治医や家族にも状態を説明や連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は散歩を実施、時にはカラオケ、計算問題、地域の歴史等のクイズ、ボーリング、バレーなど様々な事をして楽しんでもらっている。毎日の仕事として洗濯物たたくみをされたいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望に応じて、出来るだけ戸外に出られるよう支援している。また職員側からの声かけで外出等も行っている。天候や季節に応じて、花見や地域の催し物にも参加し、地域の方々とも交流している。また、墓参りや法事の参加は家族に協力をしている。	花見、ひまわり、コスモス見学等、季節毎の外出の外、地区のふれあい祭り、公民館の行事に参加し、楽しまれている。家族の協力を得て、墓参り等、馴染みの場所への訪問が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額は持って頂いていないが、ご本人様で管理出来る金額を家族と合意の上で所持してもらい、使ってもらっている。「無くなった」などの訴えが生じた場合は、家族様と相談の上、対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望があれば、その都度対応している。電話があった場合は、子機を利用して通話してもらっている。手紙等の希望にもいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は安心して歩行出来る様に手すりがついており、幅も広い。照明にも気をつけ天気が悪い日は暗くならないよう調節している。行事写真や利用者作品を貼る事で、季節感を楽しみながら、歩行練習が出来るように工夫している。 必要に応じてリビングの模様替えを行い、居心地良い環境作りに努めている。(季節の草花を飾り季節感を感じていただいている。)	広々とした木の温もりのある居間、食堂は、温度、湿度にも配慮が見られ、ご飯の炊ける匂い、包丁や食器の音が聞こえ、気の合った利用者同士で思い思いにくつろがれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファがあり、ゆったりと話が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みのタンス・棚・テレビ等持込んで頂き、本人様、家族様の好みに配置して頂いている。また、入居後も必要なものはいつでも持ち込んで頂いている。しかし、混乱等がある場合は、ご家族に相談し、荷物を預からせて頂くことがある。	居室にはトイレ、洗面台が設置され、使い慣れた家具が持ち込まれている。家族の写真、置物、ぬいぐるみ等で飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のある所はスロープ・手すり、またトイレと廊下と浴室は手すりを設置されており、その人の機能に応じて安全で安心した生活が営めるよう工夫している。玄関前は、交通量が多いため玄関には、チャイムをつけ、利用者が1人で外に出ようとしてもすぐに対応できるように工夫している。		